

## 「ジャポニスム2018」続報 8

本号では、10月末から11月中旬にかけて開催された「ジャポニスム2018」の諸事業と特別企画である「パリ東京文化タンデム2018」諸事業について報告致します。

1

### 目次

- |                                       |     |
|---------------------------------------|-----|
| 1. 木ノ下歌舞伎「勧進帳」公演                      | 2   |
| 2. 【2.5次元ミュージカル】「美少女戦士セーラームーン」スーパーライブ | 3~4 |
| 3. 『歌舞伎役者 片岡仁左衛門』特別上映会                | 4   |
| 4. 装飾美術館での「ジャポニスムの150年」展              | 5   |
| 5. 【特別企画】パリ東京文化タンデム2018の諸事業           | 6   |
| ① パリ市庁舎での小池都知事歓迎レセプション                | 6   |
| ② パリ市庁舎前広場とパリ日本文化会館での「ふろしき」イベント       | 7   |
| ③ パリ日本文化会館での「からくり人形」動態展示              | 8   |
| ④ 「アール・ブリュット ジャポネII」展                 | 8   |
| ⑤ 「東京画 SHIBUYA-TOKYO CURIOSITY」展      | 9   |

## ① 木ノ下歌舞伎「勸進帳」公演

現代演劇シリーズの一環として11月1日(木)~3日(土)の各20時半からポンピドゥー・センターで開催された木ノ下歌舞伎「勸進帳」(木ノ下裕一監修・補綴、杉原邦生演出・美術)の2日目公演を拝見しました。

演出家である木ノ下裕一さんは、パリ日本文化会館で2016年1月末に「黒塚」を上演し、好評を博しました。その評価もあって今回のジャポニスム2018の現代演劇シリーズに選ばれたともいえます。

木ノ下歌舞伎は古典と現代、日本とフランスの境を越え、歌舞伎の可能性を追求していますが、古典歌舞伎の代表演目である「勸進帳」を、ファッションショーで使用するような細長い長方形の非常にシンプルな対面式の舞台上にて、現代風にアレンジした衣裳で、最少人数で演じる形をとっています。

非常にハイテンポのセリフ回しと義経方と頼朝方の家臣を同じ役者が演じることによる場面転換等が巧妙に工夫されていて、緊張感とともにユーモアもあり、大変見ごたえがありました。

前評判も良かったらしく、自由席の劇場前には非常に長い列ができて、会場に入るのにかなりの時間がかかりました。



木ノ下歌舞伎を見るために劇場前に並ぶ人々の列

## ② 【2.5次元ミュージカル】「美少女戦士セーラームーン」スーパーライブ

11月3日(土)と4日(日)にパリのパレ・デ・コングレの大ホールで【2.5次元ミュージカル】「美少女戦士セーラームーン」スーパーライブが開催されました。筆者は3日の初日公演を見ることができました。

実は前日の2日(金)の12時頃、「セーラームーン」に出演する5人の美少女戦士がパリ日本文化会館を電撃的に訪問しました。セーラームーン、マーキュリー、ヴィーナス、マーズ、そしてジュピターの5人です。15分ほどの短い時間でしたが、それぞれの自己紹介に始まり、決め手のポーズをしたのち、撮影タイムまであり、まさに大サービスで、集まった熱烈なファンやプレス陣も大満足の様子でした。



パリ日本文化会館情報センターに姿を現した「美少女戦士セーラームーン」の5戦士



【2.5次元ミュージカル】「美少女戦士セーラームーン」スーパーライブ開演前の会場

この2.5次元ミュージカル「美少女戦士セーラームーン」も7月中旬に行われた「刀剣乱舞」同様に非常にエンタテインメント性が高い、華やかな舞台でした。同じく2部構成で、1部は2時間ほどのミュージカル、2部は1時間ほどの歌と踊りとなっています。舞台中央には何本もの光の剣の輪があって、戦士たちの頭上に自在に降りてきては様々な色や形を作るといった技術的工夫があり、さらには照明やLED光線が贅沢なまでに使われて、観客席まで照射され、その間に舞台転換するなど、技術的にも面白い舞台でした。

字幕はなく、すべて日本語で上演されましたが、観客の方はセーラームーンのストーリーを熟知しており、その必要もないほどに会場は沸きかえっていました。

### ③ 『歌舞伎役者 片岡仁左衛門』 特別上映会

ジャポニスム2018の公式企画として、11月9日と10日の2日間、それぞれ午前10時から午後11時半まで、仏語字幕を製作したパスカル・グリオレ氏（元東洋言語文化大学准教授）とモハメド・ガナム氏による上方歌舞伎や各巻で扱われている歌舞伎演目に関する説明、休憩等を含めて13時間半の長時間にわたり、伝説の歌舞伎役者第十三代片岡仁左衛門（1903-1994）を追った記録映画がパリ日本文化会館で一挙に上映されました。

このドキュメンタリーが全編一挙に上映されることは日本ですら珍しく、外国での上映は初めてのことだそうです。これも「ジャポニスム2018」ならではのことと言えましょう。

この映画は日本を代表する記録映画作家である羽田澄子監督による日本映画史上稀にみる記録映画で、6巻から構成されています。製作完成までに8年費やしたそうです。

これだけの長い映画を通して見続けるのは相当の気力と体力が必要だと思います。筆者はつまみ食いのようにところどころ鑑賞させて頂いたのですが、少なからぬ観客がこの映画を最初から最後までご覧になり、堪能していました。

第十三代片岡仁左衛門は2歳から舞台に立ち、晩年に視力を失うまで演じ続けました。その仁左衛門と羽田監督との出会いがこの映画製作のきっかけとなったということですが、カメラは黒子のように、舞台上だけでなく、舞台浦やりハーサルの場、片岡家での暮らしぶりなど、演技の細部かつ深奥に至るまで役者を追っています。



映画「歌舞伎役者 片岡仁左衛門」の一場面 ©彼方舎



パンフレットを読みながら上映を待つ観客たち

#### ④ 装飾美術館での「ジャポニズムの150年」展

11月14日(水)に装飾美術館で「ジャポニズムの150年」展内覧会が開催されました。美術館の3フロア、2,200平方メートルの広大な空間を使い、19世紀後半から現代までの工芸、デザイン、ファッション等を横断的に紹介するもので、展示総数は1,400点と大規模かつ意欲的な大展覧会となっています。まさにジャポニズムの系譜を一堂に眺められる稀有な空間となりました。日本からの出品は160点で、その他のほとんどの作品は装飾美術館自身のコレクションから選ばれたものだったとのことでした。空間構成は建築家・藤本壮介氏によるもので、ガラスケースを様々な形で使用したユニークな展示となっています。また、会場構成は①日本美術の発見者たち、②自然、③時・時間、④動き、⑤イノベーションと5つのテーマに分かれています。

内覧会は朝から晩まで開かれましたが、9時半から13時までのプレス内覧会には225人、午後的一般内覧会には406人、夕方のVIP内覧会には1,185人、そして21時からのおしゃべりには100人ほどが参加しました。VIPの中にはフランク・リステール文化大臣やチェルヌスキ美術館のルフェーブル館長、ギメ美術館のマカリュー館長など多くの要人の顔がありました。

本展覧会は2019年3月3日(日)まで開催されます。



装飾美術館「ジャポニズムの150年」展の会場風景

## ⑤ 【特別企画】パリ東京文化タンデム2018の諸事業

パリ市は世界の主要都市との間で相互文化交流を促進するための「パリ何々市タンデム」という二都市間文化交流イベントを開催しています。これまではブエノスアイレス、ベルリン、ダカール、ローマ、ロンドン、ニューヨーク、マドリッドといった都市との間で実施して来ました。今年はその対象都市が東京ということで「現代性がいかに伝統を再発明するか」というテーマで2月から12月まで開催されています。それがたまたま「ジャポニスム2018」の時期と重なりました。

2月のオープニングにはデジタルアートや現代ダンス等のイベントが開催され、著名な漫画家・浦沢直樹の展覧会も開催されました。そして秋になると、ふるしきの伝統芸術の紹介や現代写真展、からくり人形のデモンストレーションなど多様な催しが開催されました。

その秋のイベントについて以下簡単に報告いたします。

### (1) パリ市庁舎での小池都知事歓迎レセプション

11月2日(金)午後3時からパリ市庁舎で小池都知事を歓迎する式典が開催されました。1時間ほど待った4時からパリ市のイダルゴ市長と東京都の小池知事の二人がそろって会場に登場し、まずイダルゴ市長から、続いて小池都知事が挨拶のスピーチをし、そのあとで、オリンピック・パラリンピックや環境対策等でお互いに協力し合うという覚書を交わしました。



合意書を交わす小池都知事とイダルゴ・パリ市長（パリ市庁舎ホールにて）

## (2) パリ市庁舎前広場とパリ日本文化会館での「ふろしき」イベント

東京都はパリ市の協力を得て、パリ市庁舎前にパリ在住の建築家・田根剛さん設計による巨大なテントを構築するとともに、市庁舎の周囲に設置されている人物像とライオン像 40 体ほどにふろしき包みをもたせるといふ、奇想天外なアイデアの事業を実施しました。

テントの中ではふろしきの展示やふろしきの使い方を教えるアトリエなどが開かれましたが、6 日間の会期中に 21,000 人の来場者があり、その周りの広場にきた人を含めると総来場者は 7 万人に達したということです。



パリ市庁舎前に設置された巨大なふろしきテントと入場を待つ人々

同時にパリ日本文化会館地上階でも「ふろしき」展が 10 月 30 日（火）から 11 月 10 日（土）まで開催されました。11 月 3 日に同展をご覧になった小池都知事は、資生堂のデザイナーがデザインした沢山のふろしきを見ながら、「さすがおしゃれですね。」と感想を述べられました。また、日本式 2 階の教室ではふろしきのアトリエも開催されました。



パリ日本文化会館地上階で開催された「ふろしき」展

### (3) パリ日本文化会館での「からくり人形」動態展示

パリ日本文化会館地上階小ホールでは11月2日(金)と3日(土)の2日間、江戸東京博物館の企画協力による江戸の技術の粋「からくり人形」の動態展示が行われました。多様なからくり人形が実際に文字を書いたり、会場のお客様にお茶を供したり、遠く離れた的に矢を射たりして観客を驚かせたり、笑わせたりしました。一日数回の公演はすべてほとんど満席で、2日間で述べ1,000人の参加者がありました。



からくり人形による呈茶のデモンストレーション

### (4) 「アール・ブリュット ジャポネⅡ」展

パリ市の北、モンマルトルの丘のふもとにあるパリ市立アル・サン・ピエール美術館で2018年9月8日(土)から2019年3月10日(日)まで「アール・ブリュット ジャポネⅡ」展が開催されています。

筆者は9月7日(金)に行われたオープニング・レセプションで同展を拝見しました。地上階と日本式2階の展示ホール合せて約1,400平方メートルを使用した会場に展示された52組の作家による200点を超える作品の数と、多彩な手法と素材を使い、微細な部分にもこだわった作品の多様性や色彩の豊かさに圧倒されました。

同日のレセプションは1,500名近い大勢の来場者で賑わい、中にはフランスの元首相ジャン・マルク・エロー氏の姿も見受けられました。会期は長く、その後も安倍総理夫人や小池都知事を含め、パリを訪れる要人たちの多くが同展を視察していると聞きます。

詳細は下記ホームページでご覧いただけます。

[https://artbrut-japonais2.themedia.jp/pages/2166378/page\\_201808081711](https://artbrut-japonais2.themedia.jp/pages/2166378/page_201808081711)

### (5)「東京画 SHIBUYA-TOKYO CURIOSITY」展

10月18日(木)から11月17日(土)までパリ4区庁舎で渋谷をテーマに、世界の写真家100名が撮り下ろした写真プロジェクト「東京画 SHIBUYA-TOKYO CURIOSITY」が開催されています。

初日18日の夕方には開会式が行われ、木寺駐仏日本大使が挨拶に立たれました。プリントや映像、写真集で構築する重層的な東京渋谷絵巻といえます。ひとつひとつの展示物は小さいものでしたが、ゆっくりと時間をかけて見ると渋谷のいろいろな面が浮き上がり、味わいのある展覧会でした。



「東京画 SHIBUYA-TOKYO CURIOSITY」展のオープニングで挨拶する木寺駐仏日本大使

以上